抄録

関西国際空港漁業環境影響調査*

加来　靖弘・金盛　浩吉・中西　　一

この調査事業は関西国際空港の建設に伴って造成される空港護岸ならびにその周辺を利用した大阪湾およびその周辺海域の漁業対策の可能性についての技術的検討調査（漁場班），および関西国際空港の建設が大阪湾およびその周辺海域の漁業に与える影響を把握するための漁業現況の実態調査（漁業班）を，日本水産資源保護協会の委託により昭和57～58年の2年間計画で行なったものである。調査の概要は次のとおりである。

1. 漁　場　班

空港島周辺部を漁業生産の場として有効に利用するための基礎資料を得るため，加太周辺海域における各漁場（天然魚礁・人工魚礁）の利用状況および有用魚種の定着状況の調査を行なった。

調査は8隻の標本漁船，底刺網漁具による人工魚礁周辺での試験操業および潜水により次の項目について行なった。

（1）標本漁船調査では各漁場毎の利用率，魚種組成，主要魚種（マダイ，ブリ，サワラ，スズキ）の月毎の漁獲分布，CPUE等の調査。

（2）人工魚礁周辺での底刺網漁具による試験操業では魚種組成および主対象魚種であるメイタガレイの全長組成，生殖腺指数，卵径分布等の調査。

（3）潜水調査では利用度の高い人工魚礁3ケ所を春季，秋季の2回潜水し，人工魚礁の設置状況，蝟集状況等の調査。

2. 漁　業　班

漁業生産調査は，昭和56年の対象海域内の漁業生産量を漁業別魚種別に緯・経度2分間隔のメッシュマップによる分布として表わすとともに，主要漁業の操業形態を概括したものである。又，昭和36年から56年に至る魚種別漁獲量の統計解析を行なった。

漁業生産動向調査は漁業組合地域別に集計表示されている昭和36年から56年の属人農林水産統計資料を用い，魚種別漁獲量年計によって漁獲量の多い順に33種についてとりまとめた。

漁業生産分布調査は26漁業地区における昭和56年の漁業種類別魚種別漁獲量表を用いた。又，漁場の利用状況については聞きとり調査，当水試の標本漁船稼動状況等も勘案のうえ漁場メッシュに配分している。

なお，漁場班，漁業班の詳細な結果については「関西国際空港建設計画検討のための漁業環境影響調査委員会報告（昭和57～58年）」に記載している。

＊　関西国際空港漁業環境影響調査事業費による。